

おもしろいね！が、きっとみつかる

シニア世代の地域デビューを応援！  
～アッティーヴォ～

# attivo

みやシニア  
活動センター  
通信 vol.37

(令和元年11月発行)

地域ボランティアと自らの多彩な趣味を両立しています！

新年号令和の発表に続いて、平成の天皇が退位され、新天皇の即位があって間もない7月19日に市総合福祉センターで「天皇生前退位～令和を迎えた皇室のお姿～」と題した元宮内庁東宮侍従の竹元正美さんによる講演がありました。



庶民からは遠い存在の皇室の最新のお話は、興味深く、タイムリーな話題で130名にのぼる大勢の方々が参加されました。公平を心がけ、国民の平安を願って物事に処しておられた平成の天皇のお人柄、多岐にわたるご公務のお話、高齢となられての生前譲位の思いを伝えられたビデオメッセージのお話、天皇の位を皇位継承者に譲る剣璽(けんじ)等承継の儀・即位後朝見(ちょうけん)の儀・御即位一般参賀などの諸儀式のお話がありました。

中でも国民の大きな関心事である皇位継承問題では憲法と皇室典範のからみ・皇統断絶の可能性・男系継承・女性天皇・女系継承と結論には時間を要する問題であり、今後の動静に注目していかなければならない重要な問題であるとの感を強くしました。

また、雅子皇后のご公務のお姿を見て安堵したところです。

今回の37号については、河内地区更生保護女性会などで長きにわたり地域のために活躍している佐藤ツヨさん、大所帯の老人クラブの様々な事業を展開している本庄久夫さん、宇都宮市民大学等の講座を企画運営している古谷野和彦さんをご紹介します。

それぞれの分野でご活躍されている傍ら自らの趣味も多彩な方々です。(石井特派員)

①



②



③



① みんなのお母さん、佐藤ツヨさん

② 日々、地域社会に貢献

本庄 久夫さん

③ シニア世代こそ、視野を広げて

古谷野 和彦さん

「attivo (アッティーヴォ)」とは、イタリア語で「活動的な、行動的な」という意味です。

## ① みんなのお母さん、佐藤ツヨさん

取材：肥後特派員

今回は、岡本地区の町おこしや子どもたちの育成などに尽力されている中岡本町在住の佐藤ツヨさんを紹介します。

佐藤さんは、岩手県出身で長い間「河内地区更生保護女性会」で活動されてきました。更生保護女性会とは、非行や犯罪に陥った女性が再び社会の一員として生活ができるように、立ち直りを助けるボランティアの方たちの組織です。



【佐藤ツヨさん】

よく言われることですが、出所してからが大変であり、挫折し再犯に走る傾向にあるため、それを止めさせて立ち直ることを支援していきます。そのためには、豊かな知識や経験が必要であり、生半可な安易な気持ちではできない、心の触れ合いを持ち、手を取りながらの活動が大切です。

犯罪や非行に走った人の社会復帰を支援する宇都宮市内の更生保護法人「尚徳有隣会」は、一定期間、住まいや食料を提供し、この間に仕事を探しながら次の生活の準備の手助けをする施設です。佐藤さんは、入寮者に優しく接し、お母さんの代わりとして皆さんから頼りにされていました。

また、佐藤さんは、岡本小学校の学童支援も行っています。学校に訪問した際、テーブルにはお手玉を作るための布、中に入れる数珠玉が置いてあり、佐藤さんの周りには数人の児童が、布をお手玉の形に縫っていました。その傍らで佐藤さんが作り方、縫い方をやさしく教えていました。驚いたことに一人の男の子が、お手玉を作ることが楽しいと言って、熱心に作っていたので、思わず「うまいな」という言葉が自然に出てしまいました。今どきの子どもでも自分の両親ですらやったことのないような遊び道具に興味があるのだと妙に感動しました。

さらには、岡本地区最大の町おこしのイベントである「わくわくフェスティバル IN かわち」は、青少年を健やかに育てる目的で活動されている「河内地区青少年育成協議会」の主催事業であり、佐藤さんもこの組織の一員として活動されています。

他にも春は花をいっぱいにするイベント、12月のクリスマスコンサートと、大きなイベントがあり、3つの中学校が中心となって開催しています。河内中学校、古里



【花壇を花でいっぱいに】

中学校、田原中学校の生徒が中心になり、その周りの小学校の児童、幼稚園の園児など河内地区の全ての青少年に広がり、さらにうまく回っていくのだろうと感じました。

佐藤さんの人生は、自分のためではなく常に人のためであり、周りの人が良くなればという思いで生きてこられたことがうかがえます。

73歳の今、「少しゆっくりしたい」とおっしゃっていますが、周りが放っておきません。常に頼りにされるでしょう。

でも、佐藤さんご自身も忙しい充実した日々を楽しんでいるように見えました。

## ② 日々、地域社会に貢献

## 本庄久夫さん

取材：猶原特派員

老人クラブ「おおいちょう河内」の本庄久夫（ほんじょう ひさお）会長に河内地区市民センターでお話をお聞きしました。

当クラブは、住み慣れた河内地区でサークル活動、ボランティア活動やスポーツ等を通して地域の交流を深め、仲間づくりを通して支え合いながら、毎日を元気に過ごすため、生きがいづくり、健康づくり、地域づくりに取り組んでいます。



【会長の本庄久夫さん】

現在、18支部、会員数約1,200名が、地域の特色を生かした様々な活動を行っており、各支部では、スポーツの活発な支部、演芸の活発な支部、文芸の活発な支部等、皆さんご自身の得意な分野で活動されています。

イベントでは、年2回の輪投げ大会をはじめ、毎年、パタック大会・グラウンドゴルフ大会・体育祭・歩け歩け大会・日帰りの研修旅行・文芸作品展・演芸祭等を開

催し、各支部との交流を深め、仲間づくりに努められています。

また、年2回「おおいちょう河内 長寿」という広報誌を発行されています。

さらに上部組織にあたる「おおいちょう宇都宮（宇都宮市老人クラブ連合会）」主催の色々な行事にも参加され、普段の活動に対する表彰や様々な大会において優秀な成績を収めるなど多方面にわたり会員の皆さんが活躍されています。

このように精力的に活動されている本庄会長ですが、昨年度までは副会長を務め、今年度から会長に就任されたばかりです。お話をさせていただき、豊富な経験、人当たりの良さや実行力を備えた最適な方が会長になられたと感じました。

本庄会長は、宇都宮市で育ち、学校卒業時は日本が戦後の不景気の時代であったため、やむなく上京し、東京で仕事をされていたそうです。その後、ご両親の介護のため、65歳の時に地元に戻ってきましたが、東京での生活が長く地元での知人が少なく、当初は大変だったそうです。

少しずつ行動範囲を広げていくうちに、老人クラブの存在を知り、クラブの活動を始められ、約20年間多岐にわたり活動されてきました。この間のご苦労はいかほどかと思ひ、こうした経験があるからこそ、現在があると感じました。

現在、会長としての活動は、「おおいちょう河内」の事業開催、各支部への行事参加や「おおいちょう宇都宮」主催の事業等への参加とお忙しく過ごされています。

また、4月から知人に頼まれて福祉施設でのお手伝いも始められました。細身の体つきでどこにそんなエネルギーがあるのか不思議なくらいです。現役時代は、スポーツ・日本舞踊・三味線と趣味も広く、多方面でご活躍されていたそうです。

現在は忙しくて日本舞踊や三味線とは離れているようですが、スポーツ・カラオケ・ゴルフを楽しまれているとのことでした。

お話を聞きし、現役時代の豊富な経験と老人クラブでの約20年にわたる人脈を生かし、今後、ますます「おおいちょう河内」は発展していくと確信しました。

以下に11月の主な行事を掲載させていただきましたので、ご興味のある方はご参考にしてください。

6日（水）パークゴルフ大会、9日（土）～12日（火）文芸作品展  
18日（月）ハートフル演芸祭。



【筑波宇宙センター 研修旅行】

（HIIロケットの前で）

「人生100年時代」、退職してからこそ未来に展開される最新の学問や知識等を知って活かし、自分の人生を豊かに充実させたい!! このことをモットーに地道に活動している古谷野和彦（こやの かずひこ）さんにお話を伺いました。



【グループ縁のメンバー】

古谷野さんは65歳を前に退職した後、何か人の役に立つことが出来ればと考え、本紙「attivo」の特派員となり約4年間発行に力を尽くされました。また、複数のボランティア活動をする中で市の生涯学習課のボランティアとしての活動は、始めてから約8年が経ちました。

市の活動では、中央生涯学習センターの「修道館アカデミー」と宇都宮市民大学の講座の企画運営をグループ「縁」の仲間と月に1～2回集まり、限られた予算の中、魅力があり

多くの受講者に満足してもらえる内容とするため情報を出し合い知恵を絞り検討するそうです。受講者の関心が高い健康・終活・相続、最先端技術の人工知能やロボット、毎年起きる自然災害、来年開催される東京オリンピックにちなみ江戸の歴史に関する内容の講座などと工夫を凝らしているとのことでした。

市の広報紙等に掲載されている講座や市民大学の案内には、興味を引く内容が盛り込まれ古谷野さんたちの工夫や苦勞が反映されているのです。

ご自身は、年齢を重ねるほど自分の定規に合わないと感じる新しいものを中々受け入れられなくなり自己中心的になりやすい傾向になるため、柔軟な考えを持ち広い視野で物事を考えられるように心がけ、以前から多くの大学の公開講座などを受講し、情報や知識を得るだけでなく受講者の方に聞いてもらいたい講師の先生を探すなどの努力も欠かしません。

このように苦勞して開講しても、受講者が少なかったり満足してもらえなかったりと魅力ある講座を企画することは難しいことですが、受講者が多いときや常連の方が増え、さらに「良かった」「参考になった」との声が多いときは嬉しい一瞬ですし、講座を受講したことがきっかけで何人かの方が新たにボランティア活動を始めた時などは、少しは人の役に立てたのかなと思うそうです。

また、人のために活動するばかりではなく、なんの趣味もなかったので退職する約1年前から興味があった「トンボ玉」作りの教室を探し挑戦したそうです。女性ばかりの教室で恥ずかしい思いをしながらも2年間通い、それなりに作れるようになり、今も時々バーナーに向かって無心に作ることもあるそうです。

何事にも前向きに視野を広げ、自分のものにしていく生き方に教えられることがたくさんありました。古谷野さんの益々のご活躍をお祈りいたします。



【企画した講座の様子】

○ 発行／編集 みやシニア活動センター（宇都宮市 保健福祉部 高齢福祉課）  
住所：宇都宮市旭1丁目1番5号 宇都宮市役所2階 高齢福祉課D8窓口  
電話：028-632-2368 ファクス：028-639-8575  
ホームページ：<https://www.city.utsunomiya.tochigi.jp>